

カンガルーシップ活動 理解プロジェクト 実施報告書

報告日	2018年2月20日
学校名	滋賀大学教育学部附属特別支援学校
PTA会長名	石倉 博子

実施概要	実施活動名	唐崎学区の人との交流～作業製品を使ってもらおう～
	実施日時	①5月18日 ②6月23日 ③2月15日
	実施場所	唐崎郵便局 マミーズカフェ しえんからさき 唐崎支所
	実施目的	地域交流
	実施内容	作業で作った製品を地域の人たちに使ってもらう
	実施方法	地域の施設に訪れて作業製品を渡したり評価してもらったりする
	参加人数	中学部生徒17名 中学部教師10名 地域の人たち各施設2～6名程度

報告事項	内容	<p>①昨年度地域交流として、作業の製品を使っていた各施設に挨拶まわり。今年度も交流させてもらえるようお願いをしに行った。</p> <p>②作業で作った製品のサンプル（カレンダー、アイロンビーズの画鋸やマグネット、陶工のお皿やコップ）を持って再度各施設へ訪れた。使っただけそうなものやアドバイス（大きさや形、色使いなど）をもらい、これからの製品作りに役立てられるようにした。</p> <p>③アドバイスを受けて改良したり量産したりした作業製品を各施設へ渡しに行った。</p>
	結果	<p>①昨年度の作業製品を通しての交流を大変喜んでいただき、使っているところや飾っているところを見せていただいた。今年度の交流もぜひお願いしたいと言ってくれた。</p> <p>②今年度のメンバーで作り始めた製品を地域の人に一旦見てもらい、感想をいただいた。もう少し小さな画鋸がほしい、カレンダーはメモ欄があると嬉しい、背の高いコップがあればペン立てとして使えるからありがたい、など、これからの製品作りに活かせるアドバイスをたくさんいただいた。</p> <p>③生徒が今年度作った製品を各施設へ届けに行った。自分たちでがんばって作ったので、自信を持って渡している子もいれば、使ってもらえるかどうか不安な表情を浮かべていた生徒もいた。地域の人たちには快く受け取っていただき、喜んでいただいた。それを受けて、生徒たちもほっとした表情を浮かべ、大変喜んでくれた。</p>
	所感	今年度は2年目の地域交流だったが、2年間積み上げてきたことで、地域との距離感が縮まってきたように感じる。年間を通して、複数回関わることで、地域の方からだけでなく、生徒たち自身も地域を身近に感じられるようになってきた。

添付書類	収支報告書 理解プロジェクト参加感想 資料①研究紀要原稿 資料②地域の人からのアンケート結果
------	---

カンガルーシップ活動 理解プロジェクト参加感想

提出日	2018年2月20日	
学校名	滋賀大学教育学部附属特別支援学校	
学年	中学部	1～3年

①5月18日

- ・ドキドキした。
- ・緊張した。
- ・意外な使われ方がされていた。
- ・いいですね、と言われて嬉しかった。
- ・(先輩たちの製品が使われていて) すごいなあと思った。
- ・(これから作業製品を作ることを考えて) わくわくした。

②6月23日

- ・「これいいですね、使いたいです」と言ってもらえて嬉しかった。
- ・もっと大きなコップをつくるのがんばろうと思う。
- ・箸置き注文が入ったので、それを作るのがんばります。
- ・今までと違うものを作りたい。
- ・丁寧に作りたい。

③製品を渡しに行ったあとの生徒からの感想

- ・喜んでもらえて嬉しかった。
- ・がんばって作って良かった。
- ・来年は陶工をがんばりたい。
- ・カレンダーではんこを正確に押すのは大変だったけど、うまくできて、喜んでもらえて良かった。
- ・アイロンビーズのカメさんを渡しました。

活動に参加しての感想



「唐崎学区の人との交流」～作業製品を使ってもらおう

1. 単元の設定理由

本単元では、多様な世代の唐崎学区の人たちと交流を持ちながら、自分たちの日頃の学習（活動）を発信し、学校と地域の相互に意味のある交流を目指す。昨年度より、作業学習で製作した製品を、地域の店舗や公共機関へ届けて、使ってもらえる場を設定してきた。今年度は、評価を聞いてより良い製品作りにつなげていく。その中で、自分がやってきたことの意味や地域のよさ、「誰かのために役立つ」ことを実感してほしい。生徒にも地域の人にも価値のある活動にしていく中で、日常の作業学習への意欲を高め、活動自体に、また、より良い製品を作ることに喜びを感じ、生徒の自信「私らって意外とやるやん」につなげていきたい。

2. 単元の計画

期日・時数	主な活動内容	
平成 28 年度	<ul style="list-style-type: none"> 各作業班（デザイン・クラフト・陶工）で製品を作る。 製品を持って行く準備や紹介の練習をし、持って行く。 	
5月18日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 実際の使われ方、どんな人に使ってもらっているかを知る。 使用感や使い勝手に関する意見を聞き、また使ってもらえるように頼む。 	作業製品を作る
6月23日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 改善したものを持って行き、さらに評価を聞く。 各訪問グループで意見をまとめる。 	
7月11日(火)	<ul style="list-style-type: none"> 今までの取り組みや聞いてきたことを、全員で共有する。 各作業グループで、2学期の取り組みについて考える。 	
2学期～	<ul style="list-style-type: none"> 作業の様子を見に来てもらい、交流をする。 作業班での取り組みから、学部での共同製作を考える。 作業製品を渡し、感想を聞く。 	

※作業班は、デザイン(1年)、クラフト(2年)、陶工(3年)

※訪問グループは、各作業班より数名ずつを集めた縦割りグループ

3. 自己肯定感を育むための教育的支援

教育的支援①（教育課程における支援）

- 先輩と後輩がつながって、引き継いでいく活動を仕組む。
- 地域の中で使ってもらえるもの、喜んでもらえるものを媒介にする。
- 年間を通して何回か繰り返すことで、意図や思いを込めた製品作りにしていく。
- 地域の方と直接関わり、相互に交流する場を繰り返す活動を仕組む。

教育的支援②（学習指導における支援）

- 製品のイメージを持つために、先輩の作品、iPad や本を活用する。
- 渡す相手や場所を意識できるようにする。
- どのように作れば喜んでもらえるかを考えるように支援する。
- 工夫したことや思いの伝え方、頼み方、尋ね方などの文章を用意し、練習する。

教育的支援③（自己評価における支援）

- 役立っていたり、喜ばれていたりをすることを実感する場面を作る。
- 直接、自分で持って行って渡す。
- 後日、落ち着いて振り返る。（写真やビデオ、言葉から）



製品(マグネット)

4. 活動の実際

◇「どんなふうに」「どんな人が」（1回目訪問）

昨年度に届けた製品が「どんな人が（場所で）、どんなふうに使っているのか」を見に行くこと、使い心地や感想を聞き、より良い製品を作る必要を直接感じることを目的に、店舗（カフェ）や公共機関（郵便局・支所・作業所）を訪ねることを計画した。先輩から活動を引き継いでいくこと、1年生にとっては、これから取り組む作業学習の一環としての活動となることが意識できるように、先輩と後輩のつながりによって縦割りの訪問グループを編成し、出発前に尋ね方を考え、生徒の実態に応じて、思いも一緒に伝える生徒、より簡単な言い方で伝える生徒、メモを持って出かけることによって、最初は、「えー、どうしよう」「できるかなあ」と言っていた生徒も、相手を見て自信を持って言うことができた（写真1）。



生徒たちの感想には、聞く時には「ドキドキした」「緊張した」「意外な使われ方がされていた」「いいですね、と言われてうれしかった」、1年生は「どこにありますか」と聞いたり、先輩の製品を見て「わくわくした」「すごいなーと思った」と述べている。地域も含めて学年間の今後のつながりや作業学習への意欲づけになった。

◇「改良します」「改良しました」

前回の訪問でもらった意見を参考に、先輩の製品、iPadや本を参考にしながら、どんなものが作れるかを考えた。2回目の訪問は、デザイン班は先輩が作った今年度のカレンダーを持って行くが、クラフト班と陶工班は、自分たちが作った製品を持って行くことになる。クラフト班のアイロンビーズやマグネットでは意見を活かし、同じデザインでも大きさや色を変えたり、教員からの「カフェに持って行くよね？」の問いかけに「ケーキの形を作ろう。」など、次の製品作りの意見を出し合ったりした。また、自分の思いにこだわりアドバイスを受け入れにくかった生徒が、他の生徒の頑張ろうとする様子を見て、自分から先生の意見を聞きに行き、さらに改良したりする場面も見られた。

今回も同じように、作業班で伝え方を練習した後、訪問グループごとに出かけた。前回と同じメンバーで同じ場所へ訪問した。2、3年生は3回目の訪問でもあり、校内でも尋ねる練習をしているので、到着するまでの道中から表情に余裕が見られる生徒もいた。「今までよりも上手に渡せました。」と感想を述べる生徒もいた。

◇「1学期を振り返って」

最後の作業の時間に、全員で活動のまとめをした。表情やしぐさ、相手との距離感がわかる写真を見て、気持ちを振り返ったり、届け先からの意見を伝え合った。緊張したことや上手に渡せるようになったこと、その場所では使えなくても対応して下さった方や他の場所では使ってもらえることなど、地域の方が親切に対応して下さったことを知り合い、地域の方のありがたさを感じた。その後は、地域の方々と直接関わる経験を通して「見ていること」「使ってもらっていること」を自然と意識することにつながり、その後の作業グループでの相談がこれまでよりも意識的にできるようになった。実感の持ちにくい生徒もいるが、今まで同じものばかり作っていた生徒が「違う物も作りたい」「丁寧に作りたい」など、作業学習への向かい方に変化が生まれた。作業グループ(同学年)での取り組みや学部(異なる学年)での集団での意見交換が、生徒のやる気や気持ちの変化につながったと思われる。

作業製品アンケート集約

Q 1. 製品を利用させていただいた感想をお聞かせください。
また、どんな風に使っていただいているかも教えてください。

カレンダー

- ・用務員室のホワイトボードに
- ・利用者のみなさんが見える所にかけて使用している。デザインがかわいくすてきです（しえんからさき）
- ・事務室に掲示し使用（郵便局）
- ・わかりやすい（郵便局）
- ・事務室の窓口に飾っている。
- ・しっかり止まっていて、大きさもちょうど良い感じがする（用務員）
- ・事務所の壁にかざっています。子どもたちも気にしてよく見ていた。
- ・毎年、更衣室で使っている。月々の絵に季節を考えて、工夫して仕上げているのだなぁとほほえましく見せてもらい、日付から今日はパンorご飯と確認し、実用している（給食）
- ・温かみのある手作りカレンダーは、その季節、月々の自然や行事などが上手く描かれていて、毎月、感心しながら拝見している（給食）

アイロンビーズ

- ・押しピンを障子の枠の飾りに（用務員）
- ・ホワイトボードで紙を止めるのに使用（唐崎デイ）
- ・ホワイトボードにて使用。書類をはさんだりしきりに使っている（しえんからさき）
- ・ビーズの画鋏は、お客様ルームの掲示板利用に使用（郵便局）
- ・マグネットはホワイトボードに使用。ビーズはとてもかわいくて使いやすいです（郵便局）
- ・机の引き出しにメモなどをくっつけて、とても便利に使わせていただいている（事務員）
- ・形や色などもやさしい感じがしてとてもいい。
- ・マグネットはプリントを止めている。画鋏は、柱の飾りとして止めている（用務員）
- ・イチゴのマグネットは、デスクの棚にくっつけ、仕事をしながらチラッと見て、リラックスしています（事務員）

陶工

- ・人形がついているので、テーブルの上に飾っている。かわいくてよく話のきっかけになっています（しえんからさき）
- ・陶器は、お客様のルームのペン立てや事務室内のクリップ入れに使用
- ・ペン立てはしっかりと作っていただいて、安心して使えます（郵便局）
- ・手作りの陶器の中にかわいい苔玉の人形は、事務室の窓口に置いている。お客様が窓口に來られた時に見てもらい、心が和むようにとの思いです。
- ・陶器は、水を入れ草花を入れたり、ビーズを入れて飾りに使っています。

作業製品アンケート集約

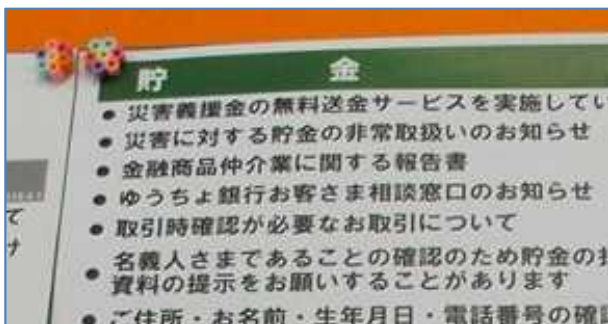
Q2. 製品を利用して頂いた中で、ご要望があれば教えてください。

- ・動物や魚、楽器などをデザインした物もあれば、うれしい（事務員）
- ・マグネット。動物などいろいろなデザインがあるとよい（用務員）
- ・カレンダー。日付部分に少しでも何か記入できるスペースあれば、もっとうれしい。あと、もう少し早めにもらえると長く使える（しえんからさき）
- ・マグネット。今もデザインは素敵ですが、いろいろな種類、サイズがあればさらに使いやすい。（しえんからさき）
- ・コップを置くコースターがあったらうれしい。
- ・押しピンに厚みがあると（押しやすい？）（用務員）
- ・使い勝手がすごく良いので、コーヒーカップなどもいいのでは？
(マミーズ)

◎ご意見を活かすとすると・・・

- ①カレンダー。何か記入するスペースのあるパターンも製作する。
- ②アイロンビーズ。動物や魚、楽器など、デザインを増やす。
- ③アイロンビーズ。陶工製品とコラボし、陶器に合うコースターなどの制作をする。
- ④陶工。郵便局で使用されているような、「小物入れとして製品を使ってもらうための小皿！そのためには倒れないように土台をしっかりと作ろう」という使われ方や製品の留意点まで想像して製作する。

郵便局で使ってもらっている様子です。



作業製品アンケート

Q3. 製作した生徒たちにメッセージがあれば、お書きください。紹介し、励みとさせていただきます。

- ・季節感のあるカラフルな作品で楽しかったです。次回も楽しみにしています。
- ・日々のニュースでは、暗い知らせが多いですが、こうして日々手作りの温かさに触れていると心がやさしく満たされます。次回の作品を楽しみにしています。（増井さん）
- ・カレンダー作りには、いろいろな物を利用して頑張って製作されておられますね。今年もアイデアを出し合って、協力して作ってくださいね。楽しみにしています。（給食の方）
- ・少しずつでも作り続けてください。楽しみにしています。（しえんからさき）
- ・とても素敵でカワイイ作品を使わせていただき、ありがとうございます。どれも置かせてもらうだけで部屋が華やかになり、気に入っております。難しい作業も沢山あると思いますが、これからも頑張って下さい。（しえんからさき）
- ・どの製品もとても手作り感があって、使わせて頂いて、心がいやされます。本当に一生懸命作られたのが、よく分かってみんなで感心しています。これからもがんばって下さい！（大津あかね郵便局 局長 竹内さん）
- ・素敵な作業製品をありがとうございました。次回もとても楽しみにしております。
- ・みなさんが頑張って作って下さった品物に、あったかさを感じます。事務で大切にに使わせていただきます。みなさんもっともっといろいろな作品作りに頑張って挑戦して下さい。楽しみにしています。（事務）
- ・一生懸命作られたと思います。気持ちがいっている仕上がりです。使われる方も大切に使っていただけるよ！（用務員 片山さん）
- ・生徒さんが一生懸命作られたのがよくわかります。また、頑張って作ってくださいね。（マミーズ 山田さん）